

上海「ミニ」通信

(北九州市 上海事務所から中国・上海の「今」をお伝えします！)

「爆買い」ブームの終焉などと日本のマスコミでは取り上げられていることも多いですが、中国人の海外旅行熱と、そもそもの人口の多さを侮ってはいけません。少々の環境の変化では、中国の世界一の海外旅行大国としての地位はしばらくは揺るがなさそうです。今回の上海「ミニ」通信では、上海で法人向け営業などを得意とする現地旅行代理店、大分県上海事務所と連携して、前回レポートした『「東九州連合」による観光ルートの可能性と有効性』を検証してみた、当事務所の取組についてレポートします。

平成 29 年 1 月 4 日

【第 10 回】東九州連合による観光ルート開発の可能性と有効性について

【今日のポイント】

- ◆ 中国人の海外旅行は、国民大衆の娯楽の一部になりつつあるが、まだまだ団体旅行が主流である。
- ◆ 現地旅行会社と連携し、北九州市観光課からの情報提供を基に、北九州市、大分県を周遊するプランを作成し、社員旅行を検討している中国企業に提案。
【結果】5月末から3泊4日で、約70人の社員旅行の団体が本市、大分県を周遊していただくことになりました！！
- ◆ 本市観光資源を団体旅行の目的地として魅力的なものにするには、本市と大分、宮崎などを結ぶ「線」での PR が極めて有効であることを再確認。

1 最近の中国人の海外旅行の概況

中国国家観光局によると、中国人観光客は 2016 年も世界一の海外旅行者数を維持しているが、海外旅行者の伸び率は前年と比べると鈍化しており、伸び率鈍化の主な原因としては、2016 年の上半期は人民元の為替レートの下落や(日本から見ると、当地の景気鈍化を感じることは皆無ですが。。)景気減速などの影響を挙げていました。

その一方で、海外旅行がすでに国民大衆の生活・娯楽の一部になりつつあり、学校の修学旅行や企業研修旅行、大型クルーズ旅行の増加により、海外旅行に行く人は今後も堅調に増えていくと結論づけていました。

2 ではその海外旅行者を呼び込むために北九州市は何をどのようにしたらいいのか？

我々は評論家ではないので、上記のようなマクロ的なレポートの分析や解説だけで終わっては意味がありません。

今回、中国ではまだまだ主流である団体旅行客を、北九州市に呼び込むためにどうしたらいいのか考えて、活動してみたので、その試みの一端を紹介します。

まず今回の試みのきっかけは、前回本稿でご紹介した「高倉健展」を軸にした本市の観光 PR の活動を通じて、「本市の単独の観光資源の PR よりも、周辺地域と連携した方が売れるのでは？」という仮説を実証してみようと思ったところからでした(前回レポートは、(公社)北九州貿易協会の HP(<http://www.kfta.or.jp/>)で見られます)。

【当事務所が実施した内容】

- 本市観光課の協力を得て、本市の観光資源の勉強し直し
- 大分県上海事務所と連携した『北九州市⇒大分県』のルートづくり
- 上海で法人向け営業を得意とする現地旅行社「東亜旅行」に協力依頼

その結果は。。。

5月末に、70人が門司港などを観光し、八幡に1泊していただくことになりました！！
(観光課の協力はもちろんありがたかったですが、我々と一緒に連携してセールスしてくださった、東亜旅行の皆様のご協力には心から御礼申し上げます！)

【今回の取組を通じた学び】

- 今回の東亜旅行はもちろん、これまで本稿で取り上げた中国国際旅行社、シートリップなど、現地旅行会社との関係を一層強化して、定期的に御用聞き、情報提供ができるような関係構築が必要。
- 事業をうまく進めるには日本の担当部署とともに、中国側の関係者との連携が重要であることを再確認。そのためにも、当事務所からの情報発信の強化が不可欠。

昨年は、私が赴任したその日に、長年勤めてくれていた現地職員から退職希望を申し出られることから始まり、本当に色々なことがあり、あっという間の一年でした。

今年は、これまで以上に皆様に価値ある情報、サービスを提供し、もっと活用していただける存在となるよう、事務所職員全員一丸となって、危機感を持って努力していきたいと心を新たにしているところです。

また、本稿では、中国という国の様子、約 13 億人が住む市場としてのこの国のことなど、皆さんが関心を持っていただけそうな話題を選んでお伝えしていくつもりですので、関心のある話題や本稿への感想があれば、下記までメールいただければ幸いです。

本年は、北九州市上海事務所をこれまで以上にご利用いただけますよう改めてお願い申し上げます。

